

百々よみとりおけいこ^㉔ (低) ねん くみ 名まえ ()

くいしんぼうの校長先生はおかしも大すきです。といふことで、おかしのはなしをしてみましよう。

むかしはおかしといふものはありませんでした。げんじゅうをたべていたなんてそういうできませんよね。生きてるか死ぬかのぎりぎりのくらしの中ではそもそもほっこりしておかしでもたべようか、というゆとりもなかつたことでしょう。

千三百年ほどまえの人が「からくだもの」というおかしをちゅうごくからもつてかえりました。小麦粉^{こむぎこ}を水でねつて油^{あぶら}であげたものだつたようです。

また、おもちがたべられはじめると、すぐにカビがはえてしまって、ほぞんのためにうすくきつてほして、たべたいときにやくといふこともおこなわれるようになりました。

せいしょうなごんという人はけつた氷にあまづらの汁^{じる}をかけてたべるのがすき、だつたそだしつる原道長^{ふじわらのみちなが}という人ものはちみつをかけただんごがすきだつたとかかれています。しかし、これらはとてもせいたくなるものでした。

お寺^{てら}や神社^{じんじゃ}のおまいりの人あいてに、おかしがうられようになるのはもうすこしあとです。また、お茶^{おちゃ}の文化とともに、生菓子^{なまがし}や干菓子^{ひがし}もたくさん作られるようになりました。

江戸時代には、のうかのにわに柿^{かき}の木がうえられるようになりました。甘がきや干しがきは、一ぱん甘味^{あまみ}を感じられるおかしだつたことでしょう。

おんどくサイン→

①なんのはなしでしよう?

②からくだものはどこから日本にやつてきたおかしですか?

③四だんらく目のことをしてできあがるおかしは次のどれですか?

（ ）せんべい（ ）かきもち（ ）まんじゅう

④からくだものはなにからできますか?

（ ）

⑤氷がすきだつた人はだれですか?

（ ）

⑥藤原道長の大こうぶつはなんでしたか?

（ ）

⑦お茶の文化と共に作られるようになつたおかしは何と何ですか?

（ ）

⑧なにをえるためにのうかが柿の木をうえたの

でしよう?

（ ） や

⑨あつているものに○をつけましよう。

（ ）おもちはすぐにカビがはえてしまつ。

（ ）小麦粉を水でねり、たくとからくだものに

なる。

（ ）お寺や神社の前に城下町^{じょうかまち}ができた。

⑩おもつたことを五行でまとめましょう。

できばえは?



① なんの話でしょう? ()

② からくだものはどこから日本にやつてきたおかしですか? ()

くいしんぼうの校長先生はおかしも大好きです。といふことで、おかしの話をしてみましょう。それも、和菓子の話です。

むかしはおかしといふものはありませんでした。原始人が毛皮を着てすごしていところ、のんびりとおまんじゅうを食べて、いたなんて、そうぞうできませんよね。生きるか死ぬかのぎりぎりのくらしの中では、そもそもほつくりしておかしでもたべようか、といふゆとりもなかつたことでしょう。

奈良時代、遣唐使が唐(いまの中国)に行き、「からくだもの」というおかしをもつてかえりました。小麦粉を水でねつて油であげたものだつたようです。

また、おもちが食べられはじめる、すぐにカビがはえてしまって、保存のためにうすく切つて干して、食べたいときにやくといふこともおこなわれるようになります。

平安時代のエッセイに清少納言は、けずつた氷にあまづらの汁をかけて食べるのが好き、などとかいていますし、

藤原道長(ふじわらのみちなが)も、はちみつをかけただんごが好きだつたとかかれています。しかし、これらはとてもぜいたくなものでした。

江戸時代には、のうかのにわに柿(かき)の木がうえられるようになりました。甘がきや干しがきは、一ぱん甘味(あまみ)を感じるおかしだつたことでしょう。音読サイン→

できばえは? ()



③ 四段落目のことをしてできあががるおかしは次のどれですか? ()

④ からくだものは何からできますか? ()

⑤ 平安時代の有名なエッセイストはだれ? ()

⑥ 藤原道長の大好物はなんでしたか? ()

⑦ お茶の文化と共に作られるようになつたおかしは何と何ですか? ()

⑧ 何をえるためにのうかが柿の木をうえたのでしよう? ()

⑨ あつているものに○をつけましょう。 ()

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。 ()

くいしんぼうの校長先生はおかしも大好きです。といふことで、お菓子の話をしてみましよう。それも、和菓子の話です。

むかしはお菓子というものはありませんでした。原始人が毛皮を着てすごしていところ、のんびりとおまんじゅうを食べていたなんて想像できませんよね。生きるか死ぬかの暮らしの中ではそもそもほっこりしてお菓子でもたべようか、というゆとりもなかつたことでしょう。

奈良時代、遣唐使が唐に行き、「からくだもの」というお菓子を持って帰りました。小麦粉を水で練つて油であげたものだったようです。

また、おもちが食べ始めると、すぐにカビがはえてしまふので保存のためにうすく切つて干して、食べたいときに焼くといふこともおこなわれるようになります。

平安時代のエッセイに清少納言はけずつた氷にあまづらの汁をかけて食べるのが好き、などと書いていますし、藤原道長もはちみつをかけただんごが好きだったとかかれています。しかし、これらは位の高い貴族の口にしか入らないぜいたくなものでした。

お寺や神社のお参りの人向けに、門前町などでお菓子が売られるようになるのはもう少し後の時代です。また、お茶の文化と共に、生菓子や干菓子もたくさん作られるようになりました。甘がきや干し柿は、おそらく最高級の

甘味を感じられるお菓子だったことでしょう。

音読サイン→

①何の話でしよう? ()

②からくだものはどこから日本にやつてきたお菓子ですか? ()

③四段落目のことをして出来上がるお菓子は次のどれですか? ()

④からくだものの原料は何ですか? ()

⑤平安時代の有名なエッセイストはだれ? ()

⑥藤原道長の大好物は何でしたか? ()

⑦お茶の文化と共に作られるようになったお菓子は何と何ですか? ()

⑧何を得るために農家が柿の木を植えたのでしよう? ()

⑨あつているものに○をつけましょう。 ()

⑩おもちはすぐにカビがはえてしまう。 ()

⑪小麦粉を水で練つて炊くとからくだものになる。 ()

⑫お寺や神社の前に城下町ができた。 ()

⑬上の話の感想を五行でまとめましょう。 ()

できばえは? ()

